# 新みやぎの市町村レビュー

2024.3

# 七ヶ浜町

## 1．概況

近世から仙台城下への水産物の供給地として栄え、現在では「うみ・ひと・まち　七ヶ浜」をキャッチフレーズとする七ヶ浜町の名称は、明治時代の開村当時に湊浜・松ヶ浜・菖蒲田浜・花渕浜・吉田浜・代ヶ崎浜・東宮浜の7つの集落があったことに由来します。三方を海に囲まれた七ヶ浜町には、縄文時代の遺跡も多く、歴史資料館隣地の国史跡「大木囲貝塚」からは、縄文時代前期から中期にかけて青森県南部以南の東北に広がった「大木式土器」がまとまって発掘され、この地が先史時代から海と深い繋がりを持ってきたことが窺えます。

また、松島湾に面した町の東側は「県立自然公園松島」「特別名勝松島」のエリアに入っており、松島四大観の一つ「偉観：多聞山」からは日本三景松島の風光明媚な景観が楽しめます。

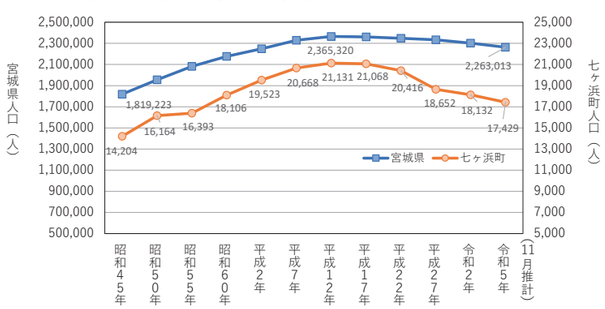
七ヶ浜町は、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う津波によって町の3割が浸水し、関連死を含めた死者・行方不明者計111名、住家被害3,929世帯となる甚大な被害を受け、社会インフラや漁業等の産業に大きな打撃を受けました。その後の復興は、「自然と共存するねばり強いハザード」「町の文化を継承する美しい景観や街並み」「未来につながる子どもたちの豊かな環境」「地域コミュニティの再生と展開」「本町の特性を生かした産業の活性化」の5つを重点項目とする七ヶ浜町震災復興計画の下で着実に進められてきました。

## 2．基本情報

七ヶ浜町の面積は、東北6県で最小となる13.19㎢です。人口は、昭和45年に14千人ほどでしたが、昭和50年代後半からの「七ヶ浜ニュータウン汐見台」の開発によって平成12年には21千人を超え、仙台市、多賀城市、塩竈市等のベッドタウンとしての位置づけが強まりましたが、その後、人口は減少傾向となり、直近の令和5年11月の推計では17,429人に減少しています。

また、国立社会保障・人口問題研究所（人口研）では2050年の七ヶ浜町の人口を11,250人※1と推計しています。さらに令和2年時点で31.2%であり県平均の28.3%を上回っている65歳以上の人口比率については、2050年に48.9%に達すると推計され、少子高齢化対策は七ヶ浜町にとって急務といえる状況になっています。

**図表1　宮城県と七ヶ浜町の人口推移**




資料：総務省統計局「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

また、七ヶ浜町の昼夜人口比率※2は67.11(令和2年国勢調査)と全国で最も低く、昼間に町内に留まっている人口が少ないことを表しています。このことは、町内に職場や学校等が不足している実態を表しているものと思われます。

震災復興が一段落した令和4年3月、七ヶ浜町は、「安心　笑顔　心いやされるまち」を基本理念とする「七ヶ浜町長期総合計画[2022-2031]」を策定しました。この計画の基本理念は、町民がまちづくりに主体的に参加しながら、相互に尊重し協力し合い、家族や地域のつながりを大切にし、ふるさとの歴史・文化や自然環境を守り愛着を持って、安全安心で健やかに暮らすことをめざす、その実現のための根幹的な考え方となります。さらに3つの基本方針（①安心できるまち、②いやされるまち、③笑顔あふれるまち）の下、七ヶ浜町がこれからも人々の笑顔があふれ心いやされるまちとして発展していくことを目指し、景観や環境の維持、農産物・海産物のブランド化や観光振興等地域資源の活用、住民のこころと身体の健幸づくり、子育て支援、教育・生涯学習の充実、地域コミュニティの連携強化、安全安心なまちづくり、公共交通など利便性の向上、官民連携等により効果的・効率的な行政運営などの様々な施策を総合的、戦略的に推進することとしています。目標人口は、計画最終年度2030年には16,944人、2060年には13,165人としています。

※1　国立社会保障・人口問題研究所（人口研）が2023年12月に公表したデータ
※2　昼夜間人口比率…夜間人口100人当たりの昼間人口の割合のこと。

## 3．産業の状況

### （1）市内総生産

宮城県市町村民経済計算によると、令和2年度の七ヶ浜町の町内総生産額は473億円と、県内35市町村中25位です。

七ヶ浜町の町内総生産額を産業別にみると、図表2にみられるとおり電気・ガス・水道・廃棄物処理業が227億円と最も多く、次いで不動産業72億円、建設業33億円などとなっています。

産業別生産額の構成比を宮城県と比べると、電気・ガス・水道・廃棄物処理業や不動産業、水産業等のウェイトが宮城県を上回り、製造業や卸・小売業、専門・科学技術、業務支援サービス業、保健衛生・社会事業などのウェイトが宮城県を下回っています。

町内総生産は、図表3及び図表4が示す通り、平成24年には東日本大震災による被災から復旧した仙台火力発電所が営業運転を再開したため大幅に伸びたほか、平成27年までは電気業、建設業等を中心に順調に増加したことによって680億円に達しました。

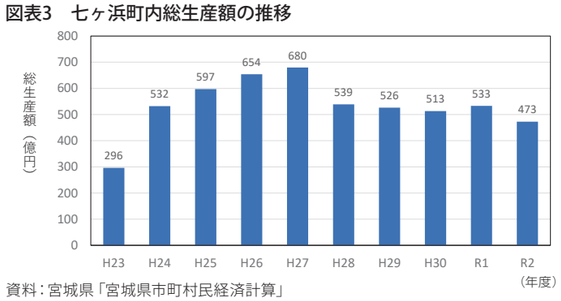
七ヶ浜町の町内総生産額は、仙台火力発電所の運転状況（メンテナンスや地震被害等による運転停止）や復興需要の増減に伴う建設業の動向などに大きく左右されます。令和2年度には、それらの要因に

**図表2　七ヶ浜町の産業別町内総生産額（令和2年度）**

| | 実額（億円） | | 構成比（%） | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 七ヶ浜町 | 宮城県 | 七ヶ浜町 (a) | 宮城県 (b) | (a-b) |
| 第一次産業 | 13 | 1,285 | 2.7 | 1.4 | 1.3 |
| 農業 | 3 | 843 | 0.6 | 0.9 | -0.2 |
| 水産業 | 10 | 386 | 2.0 | 0.4 | 1.6 |
| 第二次産業 | 42 | 23,420 | 8.9 | 24.7 | -15.8 |
| 製造業 | 9 | 15,475 | 1.8 | 16.3 | -14.5 |
| 建設業 | 33 | 7,850 | 7.1 | 8.3 | -1.2 |
| 第三次産業 | 420 | 70,415 | 88.8 | 74.2 | 14.5 |
| 電気・ガス・水道業・廃棄物処理業 | 227 | 3,112 | 48.0 | 3.3 | 44.7 |
| 卸売・小売業 | 15 | 14,321 | 3.2 | 15.1 | -11.9 |
| 運輸・郵便業 | 13 | 4,276 | 2.7 | 4.5 | -1.8 |
| 宿泊・飲食サービス業 | 2 | 1,326 | 0.5 | 1.4 | -0.9 |
| 情報通信業 | 11 | 3,349 | 2.3 | 3.5 | -1.2 |
| 金融・保険業 | 3 | 2,844 | 0.6 | 3.0 | -2.4 |
| 不動産業 | 72 | 12,079 | 15.1 | 12.7 | 2.4 |
| 専門・科学技術、業務支援サービス業 | 2 | 8,140 | 0.5 | 8.6 | -8.1 |
| 公務 | 23 | 5,509 | 4.8 | 5.8 | -1.0 |
| 教育 | 15 | 4,035 | 3.1 | 4.3 | -1.2 |
| 保健衛生・社会事業 | 22 | 8,131 | 4.7 | 8.6 | -3.9 |
| その他のサービス | 16 | 3,292 | 3.3 | 3.5 | -0.2 |
| 総生産額 | 473 | 94,852 | 100.0 | 100.0 | 0.0 |

資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」
(注) 消費税加除等により各業種の計と合計は一致しない

**図表3　七ヶ浜町内総生産額の推移**

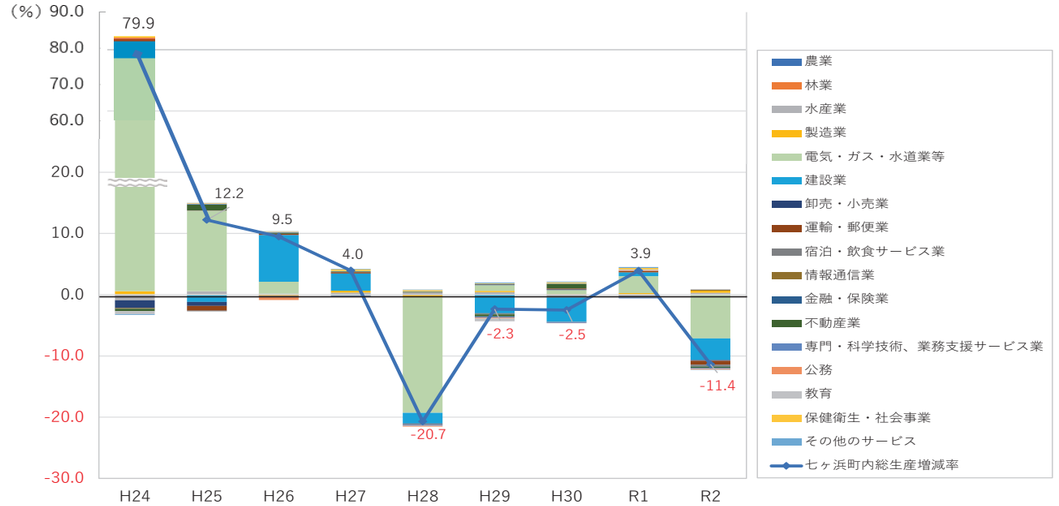



資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

加えてコロナ禍の行動制限措置の影響によって運輸・郵便業や宿泊・飲食サービス業の生産額が減少したこともあり、町内総生産額は473億円まで減少しました。

なお、令和3年の七ヶ浜町の製造品等出荷額は25.4億円、宮城県全体（5兆34億円）の0.1%と県内34位です（経済構造実態調査（製造等事業所調査））。出荷額規模が近い自治体としては、松島町（40.0億円）や七ヶ宿町（14.8億円）があげられます。

**図表4　七ヶ浜町内総生産額の業種別対前年比の推移**




資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

### （2）産業構造

図表5は、七ヶ浜町の産業構造を把握するために従業者数をベースとした特化係数※3の算出を行ったものです。これをみると、稼ぐ力と雇用の吸収という面において七ヶ浜町の産業を支えているのは建設業や運輸業、郵便業、教育、学習支援業などであるということがわかります。

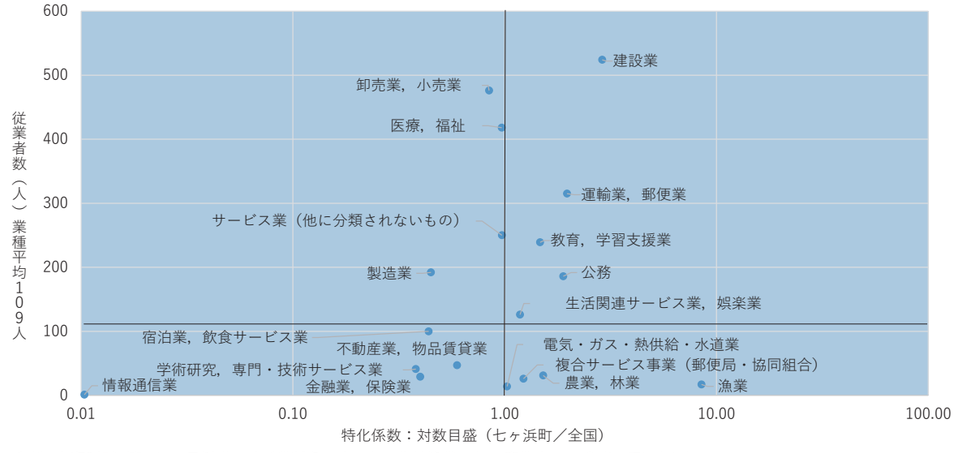
特化係数のみに着目すれば、最も高い業種は漁業となります。七ヶ浜町の漁業のメインは養殖漁業ですがその大半はノリ養殖です。一方で沿岸漁業については、主に刺網による沿岸漁業（ヒラメ、カレイ類、七ヶ浜名物の「ぼっけ（ケムシカジカ）」等の根魚類）がメインです。ただ、2018年の漁業センサスによれば七ヶ浜町のノリ養殖の収穫量は3,235トンと、県内1位である石巻市の10分の1、沿岸漁業の水揚高は111分の1となる830トンと、量的にはかなり小さいものであることや、機械化や高齢化によって事業の担い手が減少していることから、漁業が地域の経済・社会に及ぼす影響は小さいものとなっています。

ところで、多くの市町村において産業のけん引役となっている製造業についてみてみますと、その特化係数は0.45と低く、七ヶ浜町の製造業の稼ぐ力は強くはないことが分かります。昭和39年には七ヶ浜町も含めた仙台湾臨海地域が新産業都市に指定されたものの、町域が貞山運河で隣接市町村と切り離されていることや、町の大部分が丘陵地で工場の適地が少ないこと等の要因が七ヶ浜町での製造業の発展を妨げてきました。

また、卸売業、小売業（同0.84）、医療、福祉（同0.97）などの住民の生活に欠かせない業種や学術研究、専門・技術サービス業（同0.38）など、業務系の各種サービス業、町外から来訪者を呼び込み、関係人口の増加に寄与する業種である宿泊業、飲食サービス業（同0.44）の特化係数も1を下回っており、七ヶ浜町の都市機能の多くが近隣自治体に依存した状況になっていることを示しています。

※3　特化係数とは、当該市町村における産業別の生産額や従業者数の割合を全国の同様の割合で除した指数のことです。この指数が1を超える産業は、域内での生産物やサービスの金額や量が域外の平均値より多く、域外需要を取り込み域外からお金を「稼ぐ力の強い産業」とみることができます。反対に、指数が1を下回る産業は、域内需要が域外に流出し、域外にお金が漏れ出る産業、つまり「稼ぐ力の弱い産業」とみることができます。

**図表5　七ヶ浜町主要業種の特化係数（従業者数ベース）**

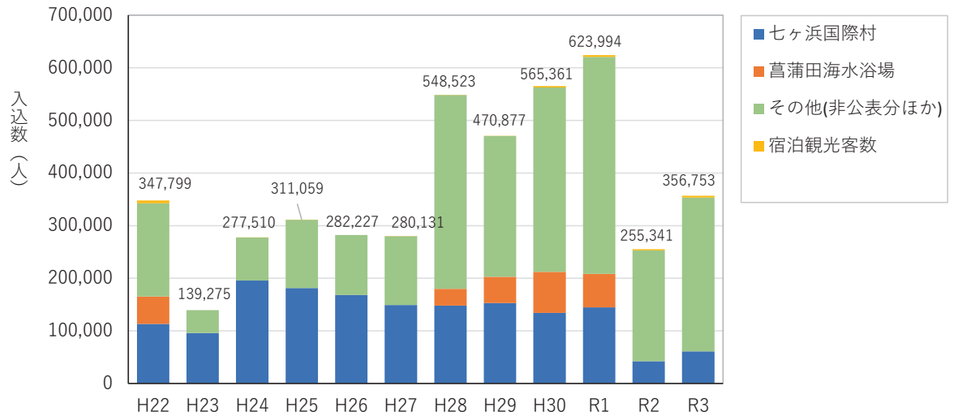



資料：令和3年経済センサス活動調査（業種名は大分類、農林漁業に個人事業者分は含まれていない）

### （3）観光

平成22年には七ヶ浜国際村や菖蒲田海水浴場等を中心に35万人であった七ヶ浜町の観光客入込数は、東日本大震災により14万人弱にまで減少しましたが、平成28年2月に「七のや」などの観光拠点がオープンしたことから、震災前を上回る約55万人に回復し、令和元年には約62万人にまで増加しました。令和2年の入込数はコロナ禍の影響で落込みましたが、令和3年は全体で36万人まで回復しています。

**図表6　七ヶ浜町観光客入込数の推移**




資料：宮城県「宮城県観光統計概要」

## 4.まちづくり

七ヶ浜町では、昭和50年代後半から「七ヶ浜ニュータウン汐見台」で行われたボンエルフ※4計画による住宅地開発が行われました。全国に先駆けて行われたこの試みは、昭和58年4月に国際交通安全学会賞を受賞し、その後の国内のニュータウン計画においてコミュニティ道路が採用されるきっかけとなるなど高く評価されました。

震災後、七ヶ浜町では平成25年に多賀城・七ヶ浜商工会等の出資により㈱七ヶ浜ハーバースクエアが設立され、地産地消や6次産業化への環境づくりに向けた取り組みが続けられています。

平成28年2月には先述した「七のや」、平成29年12月には鉄骨2階建ての「シチノホテル」(10室、定員50人)と「シチノカフェ＆ピザ」を併設した「シチノリゾート」がオープンし町への来訪者増加に寄与しました。同年には、明治21年に国内では3番目、東北地方では初の海水浴場として認められた歴史を持つ菖蒲田浜海水浴場も7年ぶりに本格再開しています。

各種計画面における七ヶ浜町のまちづくりは、七ヶ浜町震災復興計画や令和2年3月に改訂された「七ヶ浜町都市計画マスタープラン」の下で進められています。同プランは、概ね20年後のまちの姿を展望しつつ、10年後の2030年を目標年次とし、まちづくりの目標を、[うみ]自然との調和(七ヶ浜ならではの恵まれた自然と調和した潤いのある都市環境の形成)、[ひと]人間らしく生きる(協働の取り組みの推進による「ひと」と「ひと」のきずなを深める地域環境の形成)、[まち]快適で住みやすい(周辺都市との連携・機能分担の下で安全・快適に暮らすことのできる都市空間の形成)、としています。

※4　ボンエルフ(オランダ語: woonerf)とは、生活道路において、車道を蛇行させるなどして自動車の速度を下げさせ、歩行者との共存を図ろうとする道路のこと。1972年のオランダの都市デルフトがその始まりとされる 。生活の場としての道を歩車共存道路によって取り戻そうとする「コミュニティ道路」として日本各地のニュータウン計画にて採用されている。

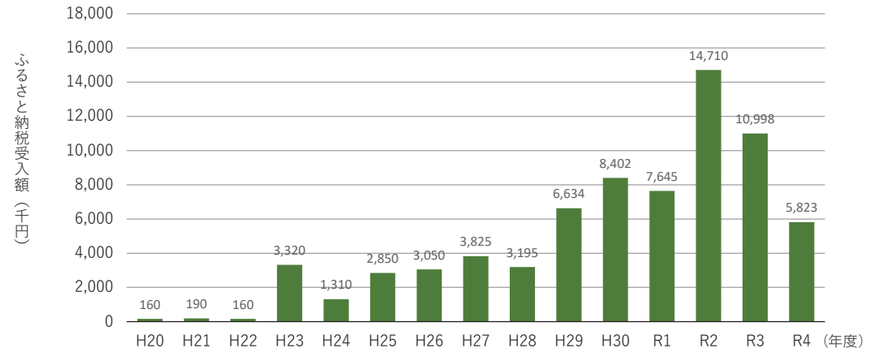
上段「七ヶ浜うみの駅 七のや」、下段「シチノカフェ＆ピザ」

## 5.ふるさと納税

七ヶ浜町のふるさと納税の受入額は、令和2年度に14,710千円となりましたが、その後は減少し、直近の令和4年度は5,823千円となっています。返礼品の中心は、海苔、あわび等の町内の特産品や加工食品等ですが、町内の特産品やブランド商品開発のポテンシャルからみて、受入額を伸ばせる余地は残っています。受入額は町民バス「ぐるりんこ」などの公共交通ネットワーク形成や震災復興推進事業等に活用されています。

なお、地方公共団体が行う地方創生の取り組みに対し、平成28年から始まった地方創生応援税制(通称：企業版ふるさと納税)について、これまで七ヶ浜町での実績はありません。現在、七ヶ浜町の地域再生計画の中で、①「日帰りリゾート」ポテンシャルを活かし、なりわいを創出する事業、②関係人口を拡げ、移住定住を促進する事業、③人材育成を充実させ、子育ての希望につなげる事業、④顔が見えるコンパクトな関係を築き、地域の安全・安心を確保する事業、の4つの事業に対し応援企業の募集を行っています。なお、七ヶ浜町は、令和6年1月に企業版ふるさと納税推進に関して七十七銀行と提携し、官民連携事業の創出等を通じた地方創生の推進に取り組んでいるところです。

**図表7　七ヶ浜町ふるさと納税受入額の推移**




資料：総務省「ふるさと納税に関する現況調査」から当社作成

### <七ヶ浜名物　ぼっけ>

七ヶ浜名産の初冬の味覚「ボッケ(魚/ケムシカジカ)」は、七ヶ浜町観光協会のキャラクター「ぼっけのボーちゃん」のモデルにもなっていますが、毎年10月中旬から11月中旬にかけて旬を迎えます。汁物として卵と同時に調理されることが多く、七ヶ浜独特のボッケ汁の作り方は、卵も添えることです。新鮮なものは、刺身や肝和えとしても親しまれ、見た目はゴツいが、身は白身で、味は淡泊、捨てる部分がなく、全て食材となるボッケ。次の旬には是非七ヶ浜で食したい郷土料理です。

資料：七ヶ浜町観光協会　はまブログほか

## 6.おわりに

七ヶ浜町内の高山外国人避暑地は、明治時代にアメリカ人宣教師らによって避暑地として開発され、「山の軽井沢、湖の野尻湖、海の高山」と称され、「日本三大外国人避暑地」の一つとされていた歴史があります。こうした環境の下で新設された「七のや」や「シチノリゾート」が、地域への人の呼び込みに一定の成果をあげている状況をみるに、七ヶ浜町のまちおこしの方向性を考えるにあたっては、やはり、仙台都市圏の近郊に位置するというこの町の立地優位性を活かした取り組みをいかに進めていくかということが、メインの検討課題になるものと考えます。

一方で、ベッドタウンの宿命である住民の高齢化や家屋の老朽化等に伴う様々な課題への対処についても様々な対応が必要になることが予想されます。

七ヶ浜町においては既にこうした諸課題に対し、公共交通の充実や賑わいを創る交流促進、防災への備えなどの様々な取り組みが進められており、「安心　笑顔　心いやされるまち」づくりは、今後も着実に進んでいくものと思われます。

(文責　調査研究部　飯村 豊)